

今日のトピック 豪ドルの足元の状況と今後の見通し 中国の景気減速懸念が落ち着くにつれ、底堅い推移へ

ポイント1 豪ドルは足元で反発

中国景気の懸念が鉄鉱石価格にも

■豪ドル円レートは、6月下旬以降、中国株式市場の下落やギリシャ問題の不透明感などから下げ足を速めていましたが、中国株式市場が反発するにつれ、足元で反発しています。

■豪ドルの動きは、このところ鉄鉱石価格の動きと連動性を高めています。中国の景気に対する不透明感が鉄鉱石価格の下落の背景にあり、こちらも足元で中国株の動きにつれ反発しています。

ポイント2 豪州景気は緩やかな回復

利下げ観測後退で、金利差維持へ

■豪州の景気は、これまでの利下げ効果などから、消費と住宅投資がけん引し緩やかに回復しそうです。RBAは、「2016年前半にかけて上向く」と見通しています。インフレは、失業率が高水準なことや資源価格の下落などから当面低位での推移が見込まれます。緩やかな景気回復と低インフレが見込まれ、過去最低の政策金利は当面据え置かれそうです。

■資源価格の下落などを背景に豪州の金利が低下し、日豪金利差は低下傾向にありました。豪州の利下げ期待が一旦後退したことに加え、日銀の金融緩和の継続もあり、日豪金利差は、当面安定的に推移しそうです。

今後の展開 豪ドルは底堅い推移へ

■中国の景気減速で、資源価格と豪州の景気が下振れることには注意が必要です。ただし、中国政府・当局は、景気対策や金融緩和により景気を支えると見られ、株式市場が落ち着くにつれ、徐々に中国の成長期待も戻ると考えられます。

■豪ドルは、資源価格の底堅さと日豪金利差の安定を背景に、底堅く推移することが見込まれます。



(注) データ期間は2014年7月1日～2015年7月9日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データ期間は2014年7月1日～2015年7月9日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

豪ドル円レートの変動要因

豪ドル円レートの変動要因		足元の状況 (豪ドルへの影響)
日豪金利差	金利差拡大で高金利通貨としての魅力が増す。	・RBAの利下げに打ち止め感 (豪ドル高) ・日銀の金融緩和が継続 (豪ドル高)
資源価格	資源輸出拡大で豪ドルの買いが活発化。	・鉄鉱石価格に底入れ感 (豪ドル高)
中国景気	中国向け輸出拡大で豪州景気が上向く。	・中国政府による景気刺激策 (豪ドル高)

(出所) 三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2015年07月09日 足元の市場動向 主要国の政策余地からリスク回避は徐々に収束へ
2015年07月07日 豪中銀、2会合連続の政策金利据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。